

前芝中学校通信

～校長室の窓から～

豊橋市立前芝中学校

第116号

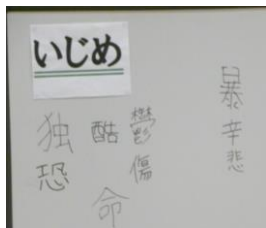
H29. 12. 21

人権週間の取り組み

～「思いやり」と「自他の命」を大切に、そして何よりも『人によって差別をしない』～

12月4日(月)から10日(日)までは人権週間でした。前芝中学校ではここ数年、『全校道徳』を実施し、いじめのない明るい学校づくりのために、全校生徒で立ち止まって考える機会としています。

今年度は12月4日、1時間目に人権擁護委員会の方3名にご来校いただき、「いじめのない人間関係づくり」についての講座を行っていただきました。講座では、講話だけでなく、学級ごとに数分間の話し合いで“いじめ”ときいて



連想する漢字一文字”を出し合いました。出てきた言葉は「命・独・辛」などでした。出された漢字からも“いじめ”はあってはならないものと子どもたちは感じていたと思います。「いじめをなくすために、今」というDVDの視聴もありましたが、生徒たちは自己を見つめ、いじめについて考えることができました。(裏面に「振り返り」の一部を掲載しました)



この人権週間には、他の取り組みとして全校生徒一人一人が「いじめ防止標語」を書いたり、無記名による「いじめアンケート」のほか、学級の道徳でもいじめについて考えました。

前芝中学校・前芝学校の子どもたちには「人を差別しない」「いじめをしない」と心に誓い、実行することで、すべての子にとって楽しい学校になるようにしたいものです。校内でも職員が声掛けやアンテナ高く子どもたちの様子を見ていきますが、いじめの特質上、ネットトラブル等見えにくいこともありますので、地域、ご家庭でお気づきの場合は、子どもたちに声掛けをするとともに、担任等へご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

＝ 君、 さん、「ユネスコスクール豊橋大会」で発表 ＝

ユネスコスクール豊橋大会が11月24日・25日に開催されました。豊橋市教育委員会主催の会で、豊橋市内を中心に、広く全国から先生方が参加しました。本校は、2日目に愛知大学で開かれたポスターセッションで、前芝学校として小中の代表4名が、発表をしました。内容はESD(持続可能な社会の発展を担う児童生徒の育成)の活動として前芝学校で核としている『防災学習』で、その後、質問に答えました。



君、 さんは、中間テスト週間中に準備と発表で大変でしたが、相手に心を伝える発表ができました。また、発表校の小中学生や参観された先生方からの質問にその場でよく考



えて堂々と答えたり、他校の発表に質問したりすることができ立派でした。前芝学校の応援にと、武内廣道ボランティアコーディネーター、北河義彦自治会長、山本章司民生委員長、森田正春市民館長がお越しく下さいました。子どもたちへの激励を、ありがとうございました。

全校道徳「振り返り」から

全校生徒が書いた「振り返り」の中から一部の生徒の感想を掲載します。

- 漢字探して、いじめに対するみんなのイメージが私と同じで、よくないことだと分かりました。作文をもとに作られたDVDを観て、いじめられている子を見つけて助けるにはかなりの勇気があると思いました。注意をしたらいっ自分標的変わるのか、孤立してしまわないか、という怖さから注意できないと思いました。それでも私は一人になることを恐れないで注意すべきだと思いました。いじめられている人は、それをきっと毎日のように望んでいると思いました。「いじめが0になることがあると思うか」で、私は手を挙げられませんでした。いじめ0には、一人一人の個性を認め合うことが大事です。お互いが傷つけずに歩いていくこと、それは難しい。だから、まずはその人に対する言葉選びから行っていくことが大切だと思います。(1年生)
- 全校道徳で人権のことを考え、どのようなことか分かりました。全国のいじめの発生件数が32万件もあったと聞き、とても驚きました。DVDでは、助けたいけど次自分が…と思うと助けられないというところでは、もし自分がその場にいたら、私もそうかなと思いました。勇気を出して言える人になりたいです。言えなくてもその子を支えてあげたりすることも大切だと、あとから読んでもらった作文で思いました。私たち中学生の人権を守ることは「誰もが毎日、笑顔で学校に行くこと」ということを聴いて、確かにそうだなと思いました。(2年生)
- 全校道徳でいじめを止める勇気を学びました。見て見ぬふりをする人も、やっている人も同罪でもあり、見ている人は誰でもいじめのターゲットにならないように、いじめる側についてしまうことがあると分かりました。でも、勇気を出せば何かが変わります。また、誰かに発した言葉で人の心を深く傷つけることもあるので、冗談でも、冗談じゃなくてもためだということです。勇気を出して「やめて」と言えば何かが変わり、それがいじめられることを止めることになり、とても大切だと思いました。(3年生)
- 映像の内容を見て、最後の音楽室のシーンでいじめられていた子が言った「ずっと気にしてくれていたのだよね」という言葉が心に残りました。あのシーンを見て、(代表で参加した)三遠南信交流会で、いじめについて討論したときも「いじめられている子は一人だけでも仲間になってくれる人がいることで、だいぶ救われることだろう」「周りの人がどうするかで良くも悪くも状況が変わる」というのを思い出しました。「この世に必要な人などいない」というのは本当にそうだ、と思わされる時間でした。(3年生)

【ユネスコスクール豊橋大会】

中日新聞 (11/26 掲載)

豊橋の児童生徒活動成果を披露 ユネスコスクール 国連教育科学文化機関(ユネスコ)の理念を実現し、持続可能な開発のための教育(ESD)を進める「ユネスコスクール」を紹介する「ユネスコスクール豊橋大会」が二十五日までの二日間、豊橋市内であった。最終日は児童生徒が同市町畑町の愛知大豊橋校舎で活動成果を発表した。世界で一千万人以上、日本全国で約千校あるユネスコスクール



防災地図の内容を説明する前芝小の児童ら。豊橋市町畑町の愛知大豊橋校舎で

市内では二〇一五年までに全七十四の市立小中学校が加盟し、取り組みの成果を披露し、今後の指針を探ろうと市教委が大会を主催した。学校周辺で八月、台風5号による突風被害を受けた前芝小の六年生らは、老朽化した空き家など危険箇所をまとめた防災地図を発表。浪崎海帆さん(二)が「地域特有の道の狭さはどうしようもないが、避難準備の大切さを住民に伝えることはできる」と訴えた。学校敷地内の茶畑で春に行う茶摘みの行事を発表した石巻中二年の加藤百華さん(二)は「八十年以上続く行事を後輩にも残していきたい」と話した。